

## 第8回稲戸井調節池整備・活用懇談会 議事要旨

日時：2011年3月1日（火） 13:00～15:10

場所：取手グリーンスポーツセンター 研修室

## 1. 第7回検討懇談会の議事要旨の確認

- ・特に意見なし

## 2. 稲戸井調節池に関する報告

## (1) 試験掘削の進捗状況

- ・第2試験地は段差ができているが、掘削深さはいくらか。  
→現在施工中であるために段差がついているがY. P. +5. 5mまで掘削予定である。
- ・当面の掘削においては、少し高低差による変化をつけると、生態系にも、人間にもいい気がする。  
→第1試験地のY. P. +2. 8mの底面部はレベルでなく、高低差をつけて施工している。  
Y. P. +5. 0mについても今後考えさせていただく
- ・Y. P. +5. 0mの条件で、どのような管理を考えているのか。全部出入り禁止にすると閉鎖感があると思うのである程度は解放したらどうか。ただ、余り自由にすると安全管理が問題となる。首長に相談して、アイデアを造って委員会に説明をしていただきたい。  
→利活用を含めて、皆さんの意見を伺いながら研究していきたい。

## (2) 環境モニタリング結果報告

- ・利根川の水位が下がった時には、池内の水は全て排水されるのか。  
→稲戸井調節池は、利根川よりオーバーフローした水を一旦貯めておく場所であるため、湿気の高い状態だが基本的には空という状況である。

## ○植生

- ・植生の遷移を考慮して、法面を緩くすることを考えてはいかがか。  
→Y. P. +5. 0mにおける皆さんからの利用要望をいただいたり、内部ではアンジュレーションをつけた環境を工事の中でできるとの意見があり、今後考えていきたい。
- ・第1試験地ではいろいろな法面勾配で施工しているがなんのための実験か。  
→法面の安定について検証をしている。
- ・鳥類、植生のモニタリングのデータは長期的に継続的に貯めておくことは、非常に意味のあることだと思うが、両方のデータを交換してお互い役立つように、統一したかたちでシステムチックにデータを貯め込んでいくようなことは検討しているか。  
→調査を体系的にというところまでは進んでいない。今後検討する必要があると考えている。

- ・鳥の多様性を守るためには環境の多様性が一番である。単純化しないで欲しい。真っ平らではなく高低差をつける水たまりをつくるなど、可能な限り多様化してほしい。サシバについては田んぼが荒れて激減しているので、調整池の開水面のような、餌となるヘビ、カエルが見つけれられる状況が欲しい。
- ・オオタカの場合は、森の鳥で利根川のような河川敷は餌をとるのは例外である。
- ・ハヤブサは空を飛んでいる鳥を上から襲うので利根川とか遊水池のような広い空間は非常によい。

### ○利活用

- ・今後の利活用のために計画、見通しを報告して欲しい。
- ・用地買収で耕作が出来なくなった人が、掘削までの間、耕作したいと言っている。国有地が個人占有出来ないならば守谷市が占有して、利用者に貸し出すことも考える。人が居ることによって、ゴミの投棄等の監視の意味も含めて工事に入るまで使わせて欲しい。
- ・農家の人も掘削しても良いが、土地の所用権を残して欲しいとの意向がある。Y. P. +5. 0mであれば、播き出しにより十分畑として利用できる。
- ・調節池内の銃猟については、どのようになっているのか。  
→稲戸井調節池は禁猟区ではない。今後、県と協議していく中で、最低限の危険は防ぐというような規制をかけていくことは可能と思う。

### (3) 今後の掘削事業および環境モニタリング計画 (案)

- ・利用してもらいながら、その利用者が整備、管理するなど、新たな仕組みが必要である。

以上